



ちばりは ニュース

2024年2月発行 第55号

千葉県千葉リハビリテーションセンターの理念と基本方針

理 念

「誰もが街で暮らすために」

Everybody will be in own town

—私たちは障害児・者の自立と社会参加に向けて良質な医療と福祉を提供します—

基本方針

- 利用者の意思と個性を尊重し、専門職の協働による包括的リハビリテーションを実践します。
- 日々の研鑽により自らの人間性と専門性の向上を図り、安全で質の高いサービスを約束します。
- 地域の各機関との連携を図り支援し、また研究・開発や専門職育成に努めます。



〒266-0005

千葉市緑区誉田町 1-45-2

TEL 043-291-1831 FAX 043-291-1857

ホームページアドレス

<http://www.chiba-reha.jp/>



能登半島地震被災地に支援チームを派遣しました

2024年1月1日午後4時10分頃、能登地方震源とする令和6年能登半島地震が発生し、石川県をはじめとする北陸の各県に甚大な被害をもたらしました。当センターは、災害支援関連団体である日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）からの要請を受け、3チーム（12名）を石川県に派遣しました。また、千葉県内からの派遣調整は、当センターが事務局を務める千葉 JRAT（千葉県災害リハビリテーション支援関連団体協議会 代表：菊地センター長）が担っています。

現地に派遣された職員の報告をもとに、現地支援の様態をお届けします。

第1隊 派遣期間：1月15日～1月19日

避難所のアセスメント・個別被災者対応



千葉リハ第1隊（医師1名・理学療法士2名・作業療法士1名）

第1隊は金沢市内に宿泊し、志賀町・七尾市で活動を行いました。現地では断水が続いているため、トイレは汲み置いた水で流していました。コンビニは営業していましたが、飲食店は閉店しているといった地域の状況でした。

各地の避難所を回り、生活が不活発になっている（※）避難者やエコノミークラス症候群のハイリスク者はいないかアセスメントを行ったほか、避難所の状況も確認し、より日常生活を送りやすくなるように生活環境を整えました。また、発災前よりシルバーリハビリ体操（住民主体の体操を中心とした通いの場）が普及している地域であり、地震発生後2～3週間後から住民同士で自主的に体操を行っている避難所もありました。

※災害時のリハビリテーションでは、災害によって家庭や地域での役割がなくなることにより、「やる事がなくなる→動けなくなる→動けなくなる」の負の連鎖を断ち切り、心身機能の低下や災害関連死を防ぐための活動をします。



第2隊 派遣期間：1月22日～1月26日 **新規入所者アセスメント・廃用予防の環境設定・摂食機能評価**



千葉リハ第2隊（医師1名・理学療法士2名・言語聴覚士1名）

第2隊は1月23日～24日にいしかわ総合スポーツセンター（1.5次避難所）を中心に活動し、1月25日には志賀町等で活動を行いました。

いしかわ総合スポーツセンターは県内最初の1.5次避難所で、発災1週間後に開設されました。1月23日時点で約380人が避難しており、6割程度が介護を必要とする状態でした。主に新規入所者のアセスメント（身体機能評価、ベッド周りの環境評価、福祉用具検討など）をし、福祉用具（簡易手すり、歩行器など）の貸し出しや調整を行いました。また、高齢者が多いため、言語聴覚士が摂食・嚥下機能に低下がありそうな方を昼食時にアセスメントして、注意点や食事の形態についての情報を現地スタッフと共有しました。



第3隊 派遣期間：1月29日～2月2日 **避難所、施設アセスメント・個別被災者対応・福祉用具選定**



千葉リハ第3隊（医師1名・理学療法士1名・作業療法士2名）

第3隊は主に輪島市で活動を行いました。

各地の施設や避難所を巡回し、避難所では保健師チームや赤十字チームと合同でアセスメントを実施しました。避難所の換気対策や段差解消、手すり等の環境調整、ポッチャ用具のレンタル依頼などを行いました。体操に抵抗がある方もいるため、ポッチャのように場所を取らず、みんなでレクを兼ねてできるスポーツ活動を提案し、身体を動かすことや人との交流を促すことができると良いと感じました。



中学校の交流授業に 参加しました！



地域新聞社が発行する「10年先のジョブノート」に取り上げられてから3年になりました。毎年多くの中学校からご依頼をいただき、交流授業に参加しています。今年度は、6校の中学校で理学療法士、作業療法士が講師として交流授業を行いました。



《 千葉市立草野中学校 》

その中の1校を
ご紹介します

令和5年11月17日に千葉市立草野中学校の交流授業へ当センター職員3名が講師として参加しました。

当日は、前半にプロジェクターを使って職業説明をし、質疑応答を行いました。生徒さんからは、「工作中に意識していることは何ですか？」「患者さんに言われて嬉しかったことは何ですか？」など多くの質問があがりました。



後半は、車椅子体験・義足体験・自助力体験の3グループに分かれて授業を行いました。最初は緊張や初めて使用する義足や自助力具に恐る恐るだった生徒さんも、後半には積極的に体験し、興味津々でした。授業終了後も生徒さんから講師である当センター職員への質問がひっきりなしで、生徒さんの積極的な姿に感動しました。

この中に、センターで働く職員の仕事に興味を持ち、将来このような仕事を志してくれる方がいてくれると嬉しいなと思います。

看護師 池畑久美子さんが「看護功労者表彰」を受賞しました

12月20日に千葉県庁で「令和5年度千葉県看護功労者知事表彰式」が行われました。当センター看護局長の池畑久美子さんが、看護分野において長年の功績が認められ、「看護功労者表彰」を受賞しました。

●受賞された感想は？

この賞をいただくことができたのは、これまで共に働いた素晴らしい仲間たちがいて、多くの方に助けてもらいながら、やりがいをもって働き続けることができたからだと思います。感謝しかありません。これからも精一杯力を尽くしたいと思います。

●今までで一番嬉しかったことは何ですか？

一番をあげることは難しいですが、患者さんのケアを通して、その方の望む支援が同僚たちと一緒にできた時、仲間の成果や頑張りを一緒に喜ぶ時、大変な中でも看護のやりがいをスタッフが話しているのを聞いた時、ここを選んでよかったと言ってもらえた時。

●これからの目標は何ですか？

健康で70歳までは働き続けられること。
できれば、これからも看護に関わる仕事を続けていきたいと思っています。看護師の仕事はやりがいがありますが、とてもハードです。できればスタッフを支えられる仕事がしたいと思っています。



池畑看護局長（左）

熊谷千葉県知事（右）



センター案内図

お車のご利用の場合

- ・千葉東金道路 大宮インターから約10分
- ・京葉道路 松ヶ丘インターから約25分

電車・路線バスのご利用の場合

- ・JR外房線鎌取駅北口から千葉中央バスのりば2「千葉リハビリセンター」行 約9分

※千葉中央バスは令和6年1月13日よりダイヤ改正しております。

JR千葉駅 ⇄ 「千葉リハビリセンター」行は全て廃止となりましたのでご注意ください。



無料送迎バスのご案内

JR鎌取駅北口発 千葉リハビリテーションセンター行き

千葉リハビリテーションセンター発 JR鎌取駅北口行き

時	平日	土曜日
8	10 30 50	10 30 50
9	10 30 50	10 30
10	10 30 50	20 40
11	10 30 50	00 20
12	10 30 50	
13	10 30 50	
14	10 30 50	
15	10 30 50	
16	10 30 50	
17	10 40	

時	平日	土曜日
8	03 23 43	03 23 43
9	03 23 43	03 23
10	03 23 43	13 33 53
11	03 23 43	13
12	03 23 43	
13	03 23 43	
14	03 23 43	
15	03 23 43	
16	03 23 43	
17	03 33	

- ①センター送迎バス発着場所について
鎌取駅発・・・鎌取駅北口ロータリー付近（専用のバス停はございません）
センター発・・・センター正面玄関前
- ②車椅子ご利用の乗車定員について
中型バス（黄色）・・・2名
マイクロバス（水色）・・・3名
- ③日曜・休日は運休となります。
- ④道路混雑等により遅延する場合があります。